



神奈川 支社篇

想いをつなげて

男爵のツツジを次の100年へ 「小田急山のホテル」

三菱の創始者である岩崎彌太郎の甥、岩崎小彌太男爵が別邸を建てた由緒正しい地に建つ「小田急山のホテル」。芦ノ湖周辺を代表する本格リゾートホテルとして、1948年の開業以来70年以上にわたり愛され続けている。ヨーロッパの古城を思わせる建物や一流のホスピタリティもさることながら、多くの人を惹きつけてやまないのが四季折々の花が咲きほころぶ大庭園。なかでも約30種3000株に及ぶツツジの多くは男爵自らが集めたもので、樹齢100年を超える株や人の背丈を超えるものなど貴重な品種が多い。小田急山のホテルでは岩崎男爵の愛したツツジを100年先まで残すため、2015年より「ツツジ100年プロジェクト」を開始。岩崎男爵から受け継いだ古品種の穂木を採取し、新潟県の協力農家へ送り、ビニルハウスの苗床で育成。苗木をホテルの庭園に戻し徹底した管理のもと大切に育てられている。技術アシスタントマネジャーの大橋さんは、そんなツツジの観察を毎日欠かさない。「岩崎男爵はたびたび園遊会を開催し、感動を皆で分かち合っていたと思います。その想いを受け継ぎ、これからもたくさんの方に美しい花々を楽しんでいただきたい。我々の手で、この庭園を末長く維持していきたいと考えています」。



小田急山のホテル外観



食べると7年寿命が延びると伝わる黒たまご

多彩なご利益の箱根の名社 「箱根神社」

奈良朝初期の天平宝字元年(757)、箱根山で入峰修行中の万巻上人が箱根大神の御神託をうけ、勅願によって創建された箱根神社。かつては、関東総鎮守・箱根大権現と称され、尊崇されてきた。古くは数多の武将が崇敬する心願成就・勝負の神様として名を馳せ、かの源頼朝や徳川家康も篤く信仰した。その後は、庶民信仰の聖地となり、開運厄除・心願成就・交通安全に御神徳の高い運開きの神様として広く知られている。箱根湯本駅から箱根登山バスで約40分。箱根神社入口で下車し、芦ノ湖畔を10分ほど歩くと到着する箱根神社には、近年女性の参拝者が後を絶たない。御本殿右隣に建つ九頭龍神社新宮は、縁結びの御神徳で名高く、箱根九頭龍の森深くに鎮まる「本宮」よりも、参拝しやすく箱根神社との両社参りも叶う。新宮の前には「龍神水」も湧き出て、手のひらにとって口をすすげば、切の不浄を洗い清める霊水として知られている。龍神水は持ち帰ることができ、御守所ではペットボトルも100円で授与されている。



九頭龍神社新宮前の龍神水舎

大地獄と呼ばれた噴火の爪痕 「大涌谷」

約3000年前、箱根火山の水蒸気爆発により堆積物が地表を覆い、その100年後の火砕流により火山砕積物が蓄積。この堆積物と火山砕積物の狭間が現在の大涌谷と呼ばれるエリアとなっている。荒涼とした大地に白煙が吹き上げる様から江戸時代までは「大地獄」と呼ばれており、1873年の明治天皇・皇后訪問を機に改称された。その後、明治の正の実業家として知られる渋沢栄一の手により温泉が開発され、日本有数の温泉地として発展。1983年には箱根ロープウェイが開通し、箱根を代表する観光スポットに。連日、国内外から訪れた多くの観光客で賑わっている。大涌谷ならではのグルメとして古くから親しまれているのが「黒たまご」。大涌谷には平安時代弘法大師によって作られたといわれている延命地蔵尊があり、このお地蔵様にあやかると「黒たまご」を食べると7年寿命が延びると伝わる。殻が黒くなる理由は、生卵を温泉池で茹でたときに気孔の多い殻に鉄分が付着し、これに硫化水素が反応して硫化鉄となるため。約80度の温泉池で60分ほどじっくりとたまごを茹で、約100度の蒸気で15分ほど蒸せば完成。現地のくろたまご館にて5個入り500円。



硫黄で黄色く染まる地表に白煙がたなびく

旅人のために、旅人とともに 「箱根甘酒茶屋」

元和四年(1618)、江戸幕府は東海道の箱根に関所を設けるため箱根旧街道を整備した。急坂が多くぬかるみやすいことから「東海道第三の難所」「天下の嶮」と呼ばれ、現存する石畳からは改善への努力が偲ばれる。そんな箱根の関所周辺には、旅の疲れを癒す甘酒小屋が軒を連ねたという。江戸初期に創業した「箱根甘酒茶屋」もそのひとつ。13代目の山本聡さんは、今なお続く理由をこのように語る。「商売が成り立たなかった時代もあったようですが、歩き疲れた旅人が1週間、2人、10日に1人でもこの店を頼ってくる限り、やめることはできなかったのではないのでしょうか。その気持ちをお客さまに受け継ぎ、今も早朝から夕方まで年中無休で頑張っています」。甘酒は旅とともにも味わってほしいという想いから、通信販売はしなくないという山本さん。味わう空間にも強いこだわりが。「2009年に建物を改築したのですが、これまでの雰囲気を変えるだけ残したかった。で、梁や土間の土など使える材料はすべて再利用しました。明るい照明や空調を完備するより、茶屋としての雰囲気を残したかったです」。照明を抑えた趣ある店内には、今日も明るい笑い声がこだまします。



13代目店主の山本聡さん

我が街のご当地自慢

動物園デビューは野毛山動物園で!

神奈川支社の大西立修(右)と
広瀬聖之介(左)がご案内します!

神奈川支社のある横浜市は見所の宝庫ですが、今回は「野毛山動物園」をチョイスさせていただきました。横浜市内にある3つの動物園のなかで、最も古い歴史を持つ野毛山動物園。1951年の開園当時は、遊園地も併設されていたもので、1964年に遊園地が閉鎖されたからは入場無料!園内に足を踏み入れれば、無料とは思えないほどの充実ぶりに驚かされます。みんなに人気のライオン、トラ、キリン、チンパンジー、レッサーパンダペンギンなどのほか、日本ではここにしかない貴重な鳥やカメを見ることが出来ます。飼育員さんの話では、ニューカレドニアにしかない「カグー」という鳥がとてかわいそうです。どうかかわいいかは、見てからのお楽しみです(笑)。野毛山動物園のテーマは「はじめての動物園」。動物園に来たことのない子供に、動物を好きになってもらいたいとのこと。小さなお子さんがいる方は、ぜひここで動物園デビューを飾ってください!



レッサーパンダ

カグー

イチオシ地元グルメ

神奈川支社のある横浜ランドマークタワーには美味しいお店がたくさん入っています。そのなかで私たちの行きつけは、日本のブランド豚「やまと豚」を味わえる「豚肉創作料理やまと」さん。最初に食べるなら、シンプルに「特選ロースカツ膳」がおすすすめ。素材の良さをストレートに味わえます!

キメが細かく柔らかい「やまと豚」をご堪能あれ!



豚肉創作料理やまと 横浜ランドマーク店
www.frieden-dining.com



横浜市立野毛山動物園 www.hama-midorinokyo kai.or.jp/zoo/nogeyama/

趣向を凝らした意匠にぜひ注目してください!

大西 三菱電機には2009年に入社し、2011年から現在の部署に所属しています。手がけた案件はどれも思い出深いものばかりですが、最近ではMUFEGローバラーニングセンターに設置させていただいたエレベーターが印象に残っています。乗る人が来る方向に対して三方枠が斜めに傾けられていたり、着床のタイミングで光るホールランタンのデザインにもこだわったりと、意匠面でかなり趣向を凝らしたエレベーターになっています。

広瀬 2017年入社ですので、手がけた物件でまだ形になっているものはないのですが、大西さんをはじめ諸先輩の仕事ぶりを見ながら勉強させてもらっているところです。僕がこの会社に入社して気づいたのは、みなとみらい駅や桜木町駅から、会社のある横浜ランドマークタワーに来るまでに乗る昇降機のほとんどが三菱電機製ということ。社員として誇らしいですし、これからはこの街に自分の手がけた昇降機を増やしていけたらうれしいと思います。



MUFEGローバラーニングセンター(写真は4F乗り場)

三菱電機神奈川支社

さらなる総合力とソリューション力をお客様へ。

神奈川支社は1970年に設立した横浜営業所が母体となり、1988年に開設しました。神奈川県内に営業エリアに、交通・水処理・防災等といった社会インフラ系ビジネスのほか、オフィス・マンション向け昇降機、セキュリティ等のビル用電機品や製造業向け各種電機品の販売等を行っています。また、昨今は代理店・関係会社等グループ各社との連携活動も積極的に展開しており、さらなる総合力とソリューション力をお客様のニーズにお応えしてまいります。

神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1 TEL 045-224-2600
(横浜ランドマークタワー18F)

Information

- | | | | | | |
|---|--|--|--|--|---|
| 小田急 山のホテル
神奈川県足柄下郡箱根町元箱根80
TEL 0460-83-6321 | 奥箱根観光株式会社(大涌谷)
神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1251
TEL 0460-84-9605 | 箱根神社
神奈川県足柄下郡箱根町元箱根80-1
TEL 0460-83-7123 | 箱根甘酒茶屋
神奈川県足柄下郡箱根町仙石原2-3-935-28
TEL 0460-83-6418 | 小田原城総合管理事務所
神奈川県小田原市城内6-1
TEL 0465-23-1373 | 露木木工所
神奈川県小田原市早川2-2-15
TEL 0465-22-5995 |
|---|--|--|--|--|---|

私たちにご相談ください!

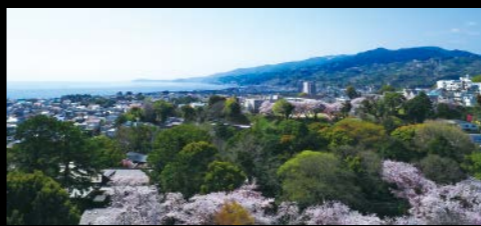
神奈川地区:代理店

- 三菱電機エレベーター施設株式会社 神奈川支店
TEL 045-241-2821
横浜市中央区宮川町3-83(イワサキビル)
- トーコービルシステム株式会社 神奈川支店
TEL 045-620-8107
横浜市神奈川区栄町3-4(パシフィックマークス横浜イースト)

難攻不落の城

小田原城

小田原北条氏が五代100年にわたる関東支配の拠点とし、四代当主氏政の時代には上杉謙信や武田信玄の攻撃を退けるなど「難攻不落の城」「無敵の城」と称えられた小田原城。箱根の関所を控えた関東地方の防衛の要として幕末に至るもの明治3年(1870)に廃城。明治5年までに城内の多くの建物が解体され、大正12年(1923)の関東大震災により江戸時代の姿は完全に失われた。その後、昭和35年(1960)に市制20周年記念事業として総工費8千万円をかけて天守閣を復興。常盤木門、銅門、馬出門については江戸時代に造られた雛型や引き図をもとに当時の姿が復元され、内部には甲冑、刀剣、絵巻、古文書など小田原の歴史を伝える資料や武家文化にかかわる資料などが展示されている。標高約60メートルの最上階からは相模湾が望み、晴れた日には房総半島まで見ることが出来る。小田原市では平成18年に小田原駅周辺地区の建物の高度規制を行い、天守閣の高さを超える建物の建築を制限。小田原市のシンボルともいえる歴史景観を次代に受け継いでいくことを決めた。さらに、復興から半世紀を経た平成27年(2015)7月から翌年4月にかけて、平成の大改修を実施。耐震補強工事をはじめ、屋根および外壁、空調設備、展示品など全面的なリニューアルが行われた。また、城址公園内では1年を通じて梅、桜、あじさい、花菖蒲、菊といった多彩な花まつりが開催され、花見の名所としても知られる。



天守閣最上階からの眺望 ※公式HP https://odawaracastle.com

受け継いだ伝統に新たな息吹を

露木木工所

小田原箱根の伝統工芸品として知られる寄木細工。江戸時代の終わりに当地で発祥し、現在も小田原箱根伝統寄木協同組合により大切に受け継がれている。そのうちの1社が「露木木工所」。同組合の専務理事のほか、一般社団法人箱根物産連合会会長、さらには公益社団法人日本クラフトデザイン協会監事を兼任する三代目の露木清勝さんに、寄木細工のルーツを尋ねた。この地域では寄木細工が生まれる遙か昔の平安時代から、ろくろを回して刃物で木を挽き、お椀などを作る木挽きが盛んに行われてきました。その後、ノコギリやカンナといった道具が開発されたことで木材を薄く加工できるようになり、寄木細工が発展したのではないかと考えられます。「箱根の山は樹種が豊富で、木肌が白いものや赤いものなど彩りが豊か。それも、着色を行わず、木そのものの色で模様をデザインする寄木細工に向いていたのではないかと語る。じつは寄木細工に似た技法は、スペイン、ブラジル、モロッコといった海外にも見受けられる。それらを目にしたことがあるという四代目の露木清高さんは「あらかじめ薄くスライスした木片を組み合わせて作る海外とは異なり、日本の寄木細工は複雑で独特。棒状の木材を寄せてある程度の厚みに切ったものを、さらに組み合わせて模様をつくり、全体を薄くスライスして貼り込みます。その技法はとても複雑、



四代目 露木清高さん



三代目 露木清勝さん



露木家に江戸時代より伝わる寄木細工のお盆

木、それ自体が素晴らしいものですからね」。

～ ミッション遂行の軌跡 ～

誰もが安心して快適に利用できる もっと人にやさしいエレベーターを。



乗車前に目的階を登録することにより、エレベーターの運行効率を大幅に向上させるエレベーター行先予報システム。海外では20年ほど前から実用化されており、大規模ビルを中心に普及が進んでいる。以前より待ち時間評価方式による群管理システムを市場投入していた三菱電機では、2008年にエレベーター行先予報システムを発表。2014年にはTVCMなどでもおなじみの『ELE-NAVI(エレ・ナビ)』としてリリースした。2015年、その価値をさらに高めるため立ち上がったプロジェクトが、エレベーター行先予報システムのユニバーサルデザイン化。開発にかかわった3人のメンバーが、そのプロセスを語る。

日本でも注目度が高まる 行先予報システム

そもそも、以前の「エレベーター群管理」と最新の「エレベーター行先予報システム」とでは何が違うのか。かつて三菱電機(株)先端技術総合研究所で群管理のアルゴリズム開発にも携わり、今回のプロジェクトにおいては開発の取りまとめ役を担った山下に聞いた。

「以前、開発に携わった群管理は、利用者が乗り場でボタンを押したときに各エレベーターの位置や乗車率を推定して配車をコントロールするシステム。乗り場に利用者が何人いて、どの階へ行くか、ということについては、あくまで予測でした。それに比べ、行先予報システムは利用者が乗り場で目的階を事前に登録するので予測ではなく、実際の人数と行き先階に応じて配車することで行きたい階へより早く行くことができるシステムになっています。」

2010年に先行導入した三菱電機が本社を置く東京ビルで導入前と導入後のそれぞれ5日間の出勤時間帯のデータを解析した結果、5分間輸送人数が約16%向上しました。



タッチパネルの課題を
「なぞる」ことで解決

三菱電機(株)稲沢製作所
開発部
管理システム開発課 専任
山下 桜子

音のプロを交え20パターン 以上の誘導音を検討

業界内での注目度だけでなく、エレベーターのTVCMなどにより一般層からの認知度も急速に高まっている。「既存

輸送人数が約16%向上。運行効率の大幅な改善が実証されている。運行効率だけでなく、セキュリティの観点から利用者に行き先階を制限する要求も高まるなか、セキュリティゲートと連動することができると行先予報システムは、まさに時代の要求に応えた技術といえる。東京ビルへの導入以来、急速に注目度が高まっているエレベーター行先予報システム。開発チームと営業チームとの橋渡し役となり、お客様の声を現場へ届ける重要な役割を担った渡部は、市場の変化に確かな手応えを感じている。

「エレベーターに対して、新しいものを、他とは違うものを」というニーズが高い海外に比べて、日本はこれまで新しい技術に対して保守的だったように感じます。しかし、東京ビルに設置されたからはお客様に実物をご覧いただけるようになり、注目と関心の高まりをひしひしと感えています。」

の製品とは一線を画すような、これまでにない三菱独自の付加価値を実現しよう——そのためのミッションとして掲げられたのがユニバーサルデザイン化だった。年齢や能力にかかわらず、すべての人に使いやすいエレベーターとは、ユーザビリティ試験を繰り返し、開発の最前線で知恵と汗を絞ったのが山崎だ。

「こうしたほうが使いやすいだろう」という仮説は立てられるものの、目や足の不自由な方が本当に不便に感じていることはわからないことが多く、今回は何が正解かわからないというところからのスタートでした。」

セキュリティゲートにIDカードをかざし、乗るべき号機を確認し、指定されたエレベーターに乗り込む。この一連の行動は、目の不自由な方には難しい。また、指定された号機が混雑している場合、車椅子の方は乗ることをためらうだろう。そのような仮説を確信に変えるため、さまざまな障がいをお持ちの方に協力を仰ぎながら、エレベーターを利用するすべてのプロセスにおけるユニバーサルデザイン化に取り組んだ。

「目の不自由な方のために、エレベーターの場所をお知らせする誘導音を、エレベーターホールから発するようにしました。さらに、エレベーターホールに複数ある号機のなかで自分が乗るべきエレベーターがわかるよう、最初とは別の誘導音を個々の号機から発するようにしています。この2種類の誘導音については、プロのサウンドクリエイターにも協力をお願いして20パターン以上の音色を用意し、目の不自由な方に実際に聞いていただきながら決めました。」

東京ビルにおける行先予報システムの実証結果

導入前と導入後のそれぞれ5日間の出勤時間帯のデータを解析した結果、5分間輸送人数が約16%向上しました。

行先予報システムあり

行き先階毎にまとめることで輸送効率が向上し、長蛇の列が解消されます。



号機	A	B	C	D	E	F	G	H
15F						●	●	↓
14F					●	●	●	↓
13F					●	●	●	↓
12F						●	●	↓
11F							●	↓
10F								↓
9F	●	●	●	●	●	●	●	↓
8F	●	●	●	●	●	●	●	↓
7F	●	●	●	●	●	●	●	↓
6F	●	●	●	●	●	●	●	↓
5F	●	●	●	●	●	●	●	↓
4F	●	●	●	●	●	●	●	↓
3F	●	●	●	●	●	●	●	↓
2F	●	●	●	●	●	●	●	↓
1F	●	●	●	●	●	●	●	↓

平均停止数：3ヶ所程度

行先予報システムなし

到着したエレベーターに人が集中する為、長い列が出来ます。(場合によってはゲートの外まで...)



号機	A	B	C	D	E	F	G	H
15F	●	●	●	●	●	●	●	↓
14F	●	●	●	●	●	●	●	↓
13F	●	●	●	●	●	●	●	↓
12F	●	●	●	●	●	●	●	↓
11F	●	●	●	●	●	●	●	↓
10F	●	●	●	●	●	●	●	↓
9F	●	●	●	●	●	●	●	↓
8F	●	●	●	●	●	●	●	↓
7F	●	●	●	●	●	●	●	↓
6F	●	●	●	●	●	●	●	↓
5F	●	●	●	●	●	●	●	↓
4F	●	●	●	●	●	●	●	↓
3F	●	●	●	●	●	●	●	↓
2F	●	●	●	●	●	●	●	↓
1F	●	●	●	●	●	●	●	↓

平均停止数：7~8ヶ所程度

誘導音の開発は、当初、駅の改札や階段、エレベーターなどに設置されている誘導音（ゆどうりん）を参考に検討した。しかし、喧騒に包まれた駅と静かなエレベーターホールでは「音」に対する人の感じ方が異なる。今回の2種類の誘導音は、エレベーターホールにおける最適な音の検討でもあった。

一方、足の不自由な方には、乗り場でエレベーターを呼ぶ際に2種類の「サポート運転モード」を用意した。利用者は通常の「早い」に加えて「近い」も

しくは「混んでない」モードを任意で選ぶことができる。

「足の不自由な方にお話を伺うなかで「常に一番早いエレベーターを求めているわけではない」ことがわかりました。たとえば杖をついていらっしゃる方は、遠くのエレベーターを指定されても間に合わない恐れがあります。そこで、エレベーターを呼ぶ際に「近い」を選ぶことで、その人が今いる場所から一番近いエレベーターをご案内できるようにしました。同様に、車



誘導音ユーザビリティ評価の様子
目の不自由な方にご協力いただき、20パターン以上の音色のなかからエレベーターホールにふさわしい2種類の誘導音を採用した。

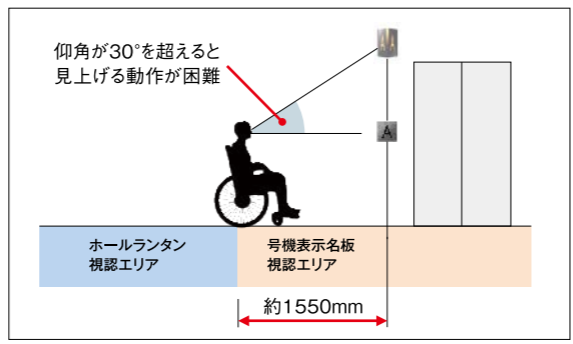
椅子の方は「混んでない」をお選びいただければ、なるべく空いているエレベーターをご案内します」と山崎。

目の不自由な方でも操作できるタッチパネルを

ホールランタン自体にも工夫が。従来のホールランタンの下に付けられた号機表示名板は壁に沿って平面の板が貼られているだけであり、横からの視認性が不十分だった。そこで、三角形の立体的な形状に号機表示機能を付加することで課題をクリア。さらに、車椅子の方への視認性にも細心の注意が払われている。人間工学上、人は見上げる角度が30度を超えると困難を生じる。ホールランタンは通常220cmの高さにあり、視線が床面から約130cmの位置にある車椅子の方からは見えにくい。そこで、ホールランタンの真下で床面から130cmの位置に号機表示名板を設けた。この号機表示名板には点字を設けており、目の自由な方にも配慮している。

そして、ユニバーサルデザイン化のクラ イマックスともいえるのが、乗り場に設置されたタッチパネル式乗場操作盤だ。タッチパネルにおける従来の課題と今回の新たな技術について、山下が説明する。

「タッチパネルはスマホの普及などにより多くの人が親しみ、三菱電機でも行先予報システムの乗場操作盤に採用しています。しかし、これまで課題だったのは機械式のボタンのように、押し手が応えがないため、目の不自由な方には操作が難しいところでした。そこで今回は、指でなぞることで階数を音声によりアナウンスするなど、目の不自由な方にもわかりやすく行き先



どこまでも自然に乘れるエレベーターを夢見て

稲沢製作所、先端技術総合研究所、デザイン研究所など三菱電機の総力を結集したエレベーター行先予報システムのユニバーサルデザイン化プロジェクトは一応の完成を見た。しかし、利用していただいでこそそのエレベーター。渡部は「ここから私の仕事です」と意気込む。

行先予報システムのさらなる普及のために



三菱電機(株)稲沢製作所 技術部 エレベーター電気設計課 渡部 亮

「エレベーター行先予報システムはまだ浸透しているとはいえない状況ですが、東京ビルに導入されてからは、うちのビルではどこまでの効果があるかシミュレーションしてほしい」というご要望をいただく機会が増えていきます。今回のユニバーサルデザイン化によって、注目度はさらに高まるでしょう。行先予報システムはビルごとの個別対応になるケースが多く、技術的な部分を含めいろいろな調査をしたうえで対応しなければお客様にはご満足いただけませんが、そこは私の仕事。お客様の声に耳を傾けながらさらなる普及に貢献していきたいと考えています。」

多くの人との出会いと関わりを通じて、プロジェクト成功の立役者となった山崎は、これまでの道のりを感慨深げに振り返る。

「ユニバーサルデザインの開発も終わってわけではなく、たとえば数字の8と3を見分けにくい人のためにはどんなフォントがいいのか」といった細かい部分の検討はまだ続いています。そのような検討を行ううえで大切なのは、やはり実際に利用される方のユーザビリティ評価です。私は今回



操作イメージ

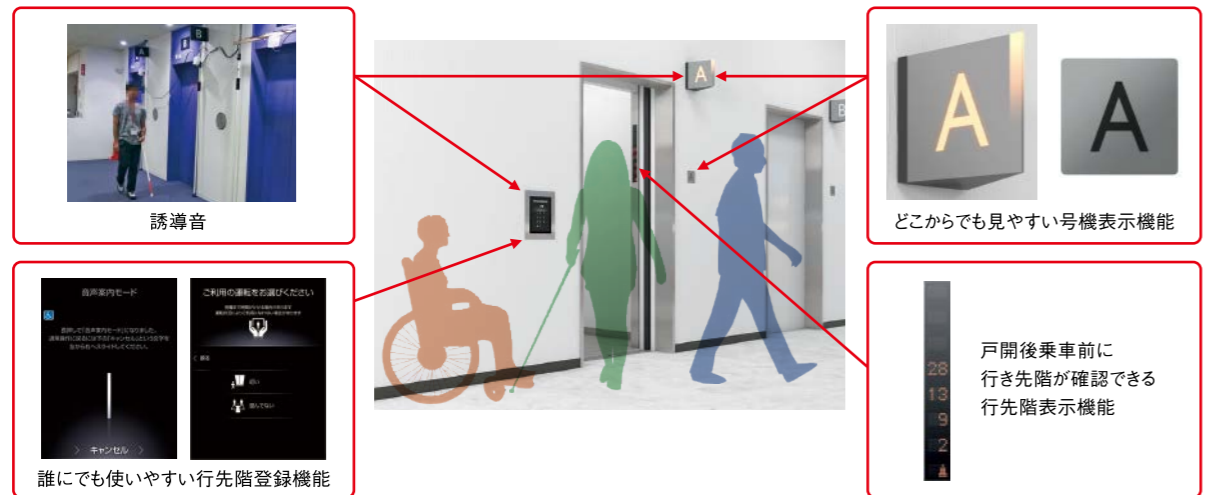
のプロジェクトを通じて、人、本位というこの大切さを再認識しました。人を中心に考えて進めたからこそ、いいモノづくりができたのではないかと考えています。新しい技術の開発は地道な実験・検証の繰り返しですが、粘り強さこそが三菱電機の伝統。これからもひたむきに、より良い昇降機を追求していきたいと思えます。」

最後にプロジェクトリーダーの山下が、開発チームだけで20名以上にのぼったメンバーを代表して未来への夢を語った。

「現状の行先予報システムは「何号機に乗ってください」という指示に従っていたけど仕組みですが、よりスムーズにお乗りいただくために、まだまだ改善の余地はあると考えています。私たちの最終的な目標は、乗るエレベーターすら指示されず、どこまでも自然にスッと乗れるエレベーター。今回のプロジェクトをはじめ、一歩ずつそこに近づいている実感はありますが、これからも目標は高く持ち続けて歩んでいきたいと思っています。」

ユニバーサルデザインを考慮した行先予報システムの乗場イメージ

さまざまな特性を持つ利用者が安心して利用できるよう、さまざまな器具・機能を新たに開発。とくに誘導音とタッチパネルによる行先階登録に関しては、最適な方法を選び出すためにユーザビリティ評価を実施した。



サポート運転モードの選択画面



“近い”モード “混んでない”モード

を指定できる技術を開発しました。

その仕組みはこうだ。乗場操作盤の前に来ると、このような音声が出る。「画面を1本の指で触れたまま指をゆっくり動かすと、触れている場所によって読み上げる階数が変わります。行きたい階が読み上げられたら画面から一度指を離して、少し離れた2本の指でタッチしてください。」

指でタッチパネルの画面をなぞり、目的の階で指を離し、2本の指でタッチ。階を指定するまでに3アクションを要するが、それには理由があるという。

「最初は階数を1階ずつ順番に読み上げ、行きたい階が読み上げられたらタッチするという仕組みも検討されたのですが、たとえば何十階もある高層ビルの場合は行きたい階を読み上げられるまで延々と待たなければいけなくなり、押し逃してしまったり再び読み上げられるのを待たなければいけません。今回採用した方式であれば読み上げるスピードも自分で調節できますので、開発にご協力いただいた目の不自由な方からも高評価を得ています。」



三菱電機(株)稲沢製作所 開発部 意匠開発課 山崎 由美子

利用者の声に耳を傾けながら改良を重ねて

IDカードをかざすとすぐに号機の案内が

カードリーダーにIDカードをかざすと、すぐに自分が乗るエレベーターを表示してくれます。あとは、案内されたエレベーターの前まで行くだけ。事前に目的階を登録しているので、扉を開けて待っていてくれました。



エレベーターホールで「どれに乗ろうか…」と迷わずにすみますね!

乗り損ねてしまったときも安心!

「セキュリティゲートで案内された乗車号機を、うっかり忘れてしまったら?」—そんな疑問に「ご安心ください」と答えてくださったのが山崎さん。乗り場の操作盤から行き先階を入力すれば、もう一度乗車する号機を案内してくれます。



ユニバーサルデザイン化されると、各号機から誘導音が流れて乗るエレベーターを教えてくださいそうですね!



エレベーターに乗れば自動的に目的階へ!

到着したエレベーターには行き先階がすでに登録されているので、わざわざボタンを押す必要はありません。混み合っているとき、入口付近の人に「すみません、〇階を…」とお願いする手間も省けますね。



あらかじめ行き先階のボタンが登録されているので、押し間違いの心配もありませんね!



取材を終えて

エレ・ナビの機能はしっかりと理解できた今回の取材。しかし、エレ・ナビはここからさらに進化しています。「この次はユニバーサルデザイン化されたエレ・ナビを体験したい!」と思わずにいられない取材班。とくに20パターン以上の音色を検討したという誘導音はとても気になります!

ele取材班がゆく!

三菱電機エレベーター試験塔「SOLAÉ(ソラエ)」

エレ・ナビでエレベーターはどう変わる? その“使い心地”を体感してきました!



エレベーター試験塔「SOLAÉ(ソラエ)」

高さ173m、40階建てのビルに相当し、超高速・大容量エレベーターの駆動制御性、安全性、重要部品開発、乗り心地などを試験できる世界最高レベルのエレベーター試験塔。

〒492-8682
愛知県稲沢市菱町1
TEL:0587-23-1111



今回の「ミッション遂行の軌跡」でご紹介したエレベーター行先予約システム「エレ・ナビ」の使い方を体感するため、三菱電機稲沢製作所の「SOLAÉ(ソラエ)」のショールームに足を運んだ取材班。まだユニバーサルデザインは施されていないものの、その利便さはしっかりと実感することができました!



まずは渡部さんにショールームやエレ・ナビの概要について説明していただきました。

つくりはまるで本物のオフィスビル!

それではエレ・ナビ体験スタート!

セキュリティゲートと連動できることもエレ・ナビの大きな特長。エレベーターホールの入口で案内してくださった山下さんの「どうぞ」という合図とともに、お借りしたIDカードをカードリーダーにかざします。

